

わが家のインターネット奮闘記

Illustration: Sachiko Hiruma



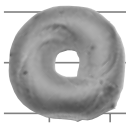
主人公・箱根たまみ
1965年4月生まれ。化粧品会社企画部勤務。ワープロ（書院）所有。パソコンもロータスクラいは使える（入力程度）。パソコン通信未経験。部長からインターネットを勉強しろとせつつかれている。



たまみの夫・箱根くに丸
1964年4月生まれ。食品メーカー物流部門勤務。98からマックに乗り換えた。ASAHIネットの古参会員でパソコン通信歴は長い。インターネットはブームで終わると思うと始める気がしない。

第5回 電子メールってどうやって送るの？

前号までのあらすじ ①「ネットサーフィン」にはまってしまった箱根夫妻。電話代とアクセス料金でNTTとASAHIネットに5万円も払うことになってしまいました。部長の前でインターネットを実演することができてたまみは安心です。しかし、インターネットをひそかに勉強していたらしい部長は、全部のコンピュータがいちいち電話をかけるなんて変だと言い出しました。スルドイ！



インターネットには 2種類のつなぎ方があります

部長！わかりました。「箱根君、報告には主語をつけてほしいなあ。なにがわかったんだね？」

朝、イサム部長の机にアツアツのコーヒーの入ったマグカップを持って行って、昨晩くんちゃんやイシザカさんに教わったことを部長に知らせようと思ったら、いきなり注意されてしまいました。部長こそふだん主語抜きでわけのわからない命令ばかりしてくせに……。

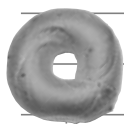
「いまのうちの部署のインターネットは、“ダイヤルアップ”というのだそうです」「ふむ。マックにいちいち電話をかけさせるやり方をそう呼ぶわけだ」「はい。それに対していちいち電話をかけないですむつなぎ方は、“専用線を引く”と言うのだそうです。それだと1年365日24時間、ずう～っとつながったままです」「ほう。そういうつなぎ方があるのか…。しかし、なんでずう～っとつないでおく必要があるのかな？」もう！いちいち電話をかけてつなぐのはおかしんじゃないかって言ったのはイサム部長のくせに！でも、私はめげずに昨晩イシザカさんから聞いた話をしました。

自社でホームページを開いて通信販売サービスを提供する場合、利用者が24時間こちらのコンピュータにアクセスできるように、コンピュータをインターネットにつないだままにしておく必要があります。ですから、インターネットで通信販売をしている会社は“専用線を引いている”と思われれます。「そうか、通信販売をするには専用線が必要なのか」「ええ、それからこの専用線の場合、電子メールがすごいんです」くんちゃんの同僚のイシザカさんは、インターネットを主に電子メールの受け渡しのために使っています。そして自分宛の電子メールが届くと、なんと！専用線を引いているイシザカさんのパソコンは“びぼ～ぼ！”と音を鳴らして、「新しいメールが届いています」という表示を出すというのでした。くんちゃんが電子メールを送ってからあという間に返事の電話がきたのは、そういうしくみがあったからだったのです。「電子メールか。じゃあ、いまわれわれは電子メールは送れないということかね？」「いや、そうじゃないんです。送ることも、受けることもできます」「じゃあ、いいじゃないか」「……」



インターネットはスーパーやコンビニの“御近所感覚”からすると、相当にスケールがでかいから、勢い大商圏型つまり低頻度型の商品ばかり考えている会社が多いよね。でも、それって、それだけだからない商品売ってことだ。僕はたとえば、夜寝る前にちょっとパソコンの画面を見て、「明朝の牛乳」って項目にチェックマークを入れると、朝牛乳が届くってような商売を考えるべきだと思うんだけどなあ。





イシザカさん、電子メールを送る方法っていろいろあるの？

日 曜日。一升瓶をぶらさげてイシザカさんがやってきました。くんちゃんが毎日インターネットのことでイシザカさんに質問の電話をかけるので、「めんどくさいから今度説明に行くよ！」ということになったんだそうです。「難しい話はとっとと終わらせて飲もうぜ。八海山もってきたよ」「これはこれは。まあ、お茶でも」イシザカさんはくんちゃんと長いつき合いなので、うちのCentris650を懐かしそうに眺めてからコーヒーをすすりました。

た まみさんのところのイサム部長、なかなかいいカンしてるよ。パソコン通信での電子メール利用は、まさに私書箱なんだ。黙って待っていても配達してくれないから、こっちから取りにいかないといけない。取りにいかないで読まれないメールが私書箱にどんどんたまっていく」「で、イシザカのパソコンの場合、電子メールが届くと音が鳴るんだろ」「うん、手元に届いちゃうの、ファイルが。インターネットに専用線でつながってれば、郵便局に24時間いるようなもんだからね。実際は1分おきとか10分おきとか、届いたファイルを確認する時間を決めておかないといけないんだけどね」「えー！じゃあソフトは？パソコン通信ソフトとか使わないの？」「箱根先生、しっかりしてくれよ。インターネットになんでパソコン通信ソフトが必要になっちゃうわけ？」「だって、うちはパソコン通信ソフトを使ってASAHIネットにつないで、それでメールを読んだり書いたりするんだよ」そうです。昨日私がイサム部長に説明した方法がそれです。その他にどんな方法があるのでしょうか？「パソコン通信ソフトじゃなくてね、ConfigPPPでダイヤルアップしてるときに使える電子メール用のソフトがあるんだ。それを使えば、ホームページを表示させながら、電子メールを書いたり読んだりできるよ」



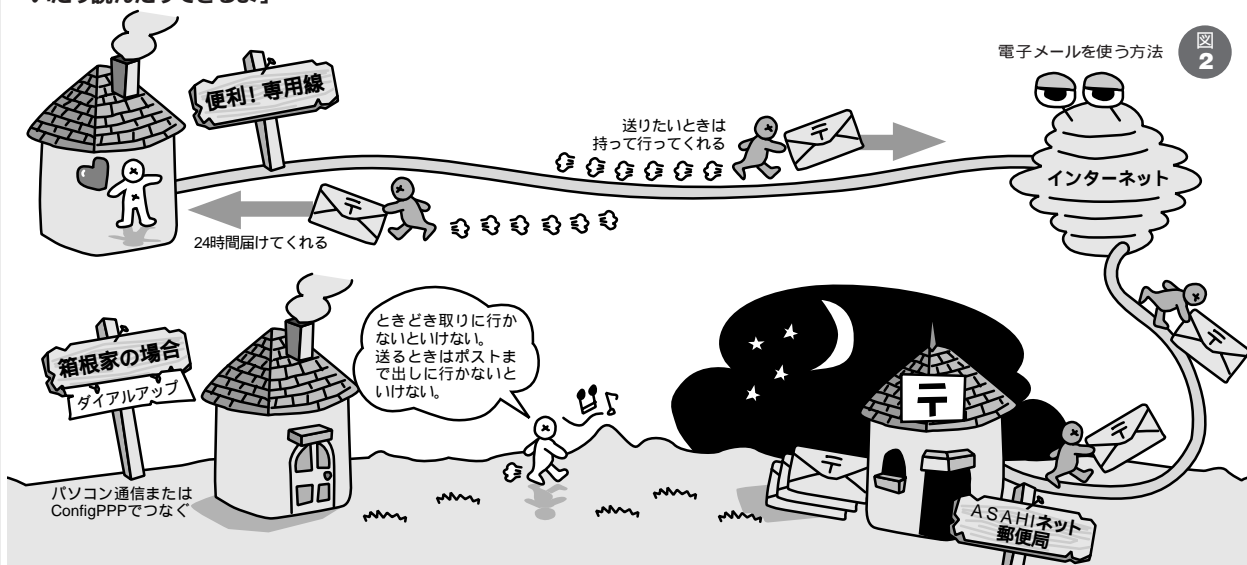
イシザカには悪いんだけど、僕はコンピュータばっかいじってるやつってのは、およそ食べ物や飲み物に対して理解がないというような偏見があったのです。だから、やつが酒通をもって自認しているというのは意外なことだった。んで、多少認識も改めることにしました。でもどうも、味よりは名前とそれに付随するデータをデジタルに理解しているだけの気もまだしている。あ、八海山は僕も好きです、はい。



お恥ずかしい。この連載の第1回るときも、パソコン通信ソフトでダイヤルアップしておいてネットスケープを立ち上げて「できないー」と騒いでいたのだった。わが家の環境でインターネットに接続するには、あくまでもMacTCPとConfigPPPを使ってパソコン自体の機能としてつなげなくちゃいけないんです。インターネットとパソコン通信は違うものだってことをちゃんと理解しなくちゃだめなんだね。

電子メールを使う方法

2





こんふいぐピーピーで 電話をかけてもよかったのね



ユードラ(Eudora)っていうソフトを使ってるんだ。ConfigPPPでインターネットにつなげてからネットスケープを立ち上げるように、ユードラを立ち上げて、電子メールを受けたり送ったりする」「そういうソフトがあるんだ~」「名前が洒落てるんだよ、これ。『僕が郵便局に住んでいるわけ』っていう小説があるんだけど、その作家の名前がEudoraなんだって。いかにも私書箱を使わないですみそうだろう」「そうか。そういうソフトを買ってこないとインターネットのメールの受け渡しはできないんだ」

「Eudoraはもともとフリーソフトだから、今度フリーソフト版を持ってきてやるよ。でもね、知らなかったかなあ、ネットスケープでもメールの送受はできるんだよ」「え!」「ウィンドウの右下に封筒のアイコンがあるから、そいつを押してみればわかるよ」

そこまで話したところで、その夜は宴会になってしまいました。イシザカさんにネットスケープを使った電子メールの利用法を聞きかけたのですが、イシザカさんはすぐにご機嫌になって、くんちゃんといっしょに会社の悪口をた~くさん言って、大きな声で笑いながら、そのまま帰ってしまいました。

私は“ネットスケープのウィンドウの右下に封筒のアイコン”なんかあったかしら?と気になってしようがなかったので、くんちゃんといっしょにイシザカさんを見送って、後片付けをすませた後、さっそくネットスケープを立ち上げてみました。「本当だー! あったよ、くんちゃん!」「え? どれどれ!」



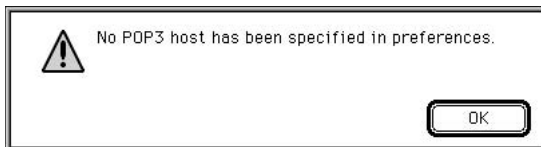
「ほら、封筒の裏側の絵がついてる」



3

「なるほど。それを押すとメールの受け渡しのメニューになるのかな」

「押してみるね」カチッ!



4

「なんだなんだ? “POP3 host” が “specify” されてませんって書いてあるな」「それって、さっきイシザカさんが言った郵便局機能のことじゃない?」



例のチェックマークを入れた日だけ日配品が届くような商売は僕とイシザカが考えた話で、実は一度2人でちゃんとレポート作って会議で提案したことがあるんだ。だけどうちの部長連はまったく理解してくれなかった。で、イシザカはメディア室でいまなにをやらされているかという、1粒の大きさが赤ん坊の頭ほどもあるアフリカ産の枝豆で作った気味の悪い健康食品を売り込むためのホームページ作りだそう。こういうのを大商圏型のくだらぬ商品って言うんだよなあ。

ネットスケープの画面からメールを送るにはどうすればいいんだろう？

夫「そうか、どの郵便局を使うのが決めてからにしろってことだな」
 妻「たぶん」
 夫「そういう設定はきっとこの“option”でやるんだ」
 妻「あ、メニューバーの“option”の下にあったよ、“Mail and News Preferences”って」(図5)
 夫「どれどれ、“POPサーバ-”ってぐらいだから、まず“server”の設定だろうな。あった“Outgoing Mail(SMTP)server”と“Incoming Mail(POP)server”(図6)
 妻「なにを書き込んでおけばいいのかしら？」
 夫「マニュアルによると、サーバーの名前は“po.asahi-net.or.jp”でいいんだって。asahi-net.or.jpのpostの役割をするコンピュータってことだな」
 妻「じゃあ、“POP user ID”は、私のasahi-netのIDね」

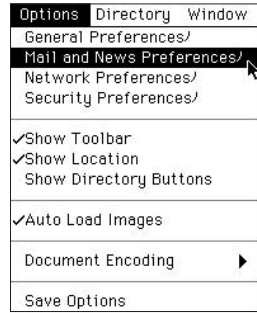
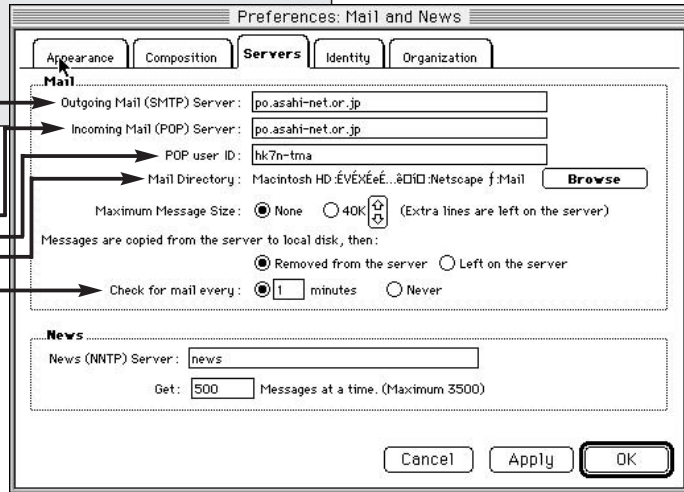
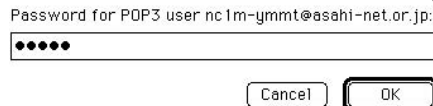


図5 optionからMail and News Preferencesノを選ぶ

図6 電子メールの送受信にASAHIネットを使うようにServerを設定 (asahi-netの場合、po.asahi-net.or.jp) (同じ) (ユーザーの名前=ID) (受信メールを保存する場所) (ここで何分おきにメールを読むか設定しておけば、つながっている間はメールが届くと知らせられる)



夫「おそらく。よし、試しにメールを打ってみよう」
 妻「じゃあ、封筒のアイコンをクリックしてみるよ…。あ、パスワードを聞いてきた」(図7)



メール用のサーバーを使うためにASAHIネットがパスワードを聞いてくる

夫「ふうん。ASAHIネットのサーバーにはもうConfig PPPでつながってるのに、またパスワードを聞いてくるってのは、なんか不思議だね」
 妻「……あ、なんか届いてるみたい」(ドキ！)
 夫「えー、なんだろう、これー」(図8)
 (ドキキ！)
 妻「なにに……。『これはPOP3テスト用メールです……』」
 夫「え？」
 妻「『あなたがこのメールを正常にダウンロードできたのであれば、ASAHIネットにパソコン通信でログインして、次の操作をしてください』だって」

ネットスケープで電子メールを使おうとしたらASAHIネットから説明書が届いた

Subject: POP3 TEST MESSAGE - PLEASE READ!
 Date: 28 Sep 1995 00:00:00 JST
 From: AP-NET@asahi-net.or.jp

--- IMPORTANT --- 重要 --- IMPORTANT --- 重要 ---
 これはPOP3テスト用メールです。よくお読みください。
 This is a message to test your POP3 client software. Please read carefully.
 --- IMPORTANT --- 重要 --- IMPORTANT --- 重要 ---

--- JAPANESE --- 日本語 ---
 あなたがこのメールを正常にダウンロードできたのであれば、ASAHIネットにパソコン通信で(またはtelnetで)ログインして、次の操作をしてください。

1. インターネット接続 を選ぶ
2. ダイヤルアップ接続の申し込み を選ぶ
3. POP3接続に関する留意事項 を読む
4. POP3利用設定 を選ぶ
5. 受信メールを転送する を選ぶ

再びPOP3でアクセスすると、ASAHIネットを受信したメールを読むことができるようになります。

* このメールの一部または全部が文字化けしている場合、お使いのソフトウェアに問題がある(たとえば日本語が使えない)か、設定が間違っている可能性があります。問題なく読めるようになるまでは、決して「POP3を正式に利用する」を選ばないでください。誤った設定のソフトウェアでメールを読んだしまった場合、該当するメールは永久に読めなくなります。回復する手段はありませんのでご注意ください。

アクセスポイント一覧
 PPP接続にはDラインをご利用ください。高品質で快適な通信を付加料金なしでお楽しみいただけます。28,800bps(V.34/V.FC)まで対応しています。
 Dラインの電話番号は、次のとおりです。

札幌	011-750-5060	仙台(1)	022-216-4461
仙台(2)	022-216-5661	つくば・土浦	0298-50-3061
宇都宮	028-651-2661	川越	0492-79-1155
浦和・大宮	048-341-1383	所沢	0429-51-1300
越谷	048-341-1383	千葉	043-212-8026
市川・松戸(1)	0473-90-7207	市川・松戸(2)	0473-90-7071
東京(1)	03-5203-8800	東京(2)	03-5645-7654
八王子	0426-70-7400	立川(1)	0426-70-7400

夫「どれどれ（おかしいなあ。さっきこっそりたまみちゃん宛のメールを送っておいのに）。へえ。どうもPOPサーバーというものと、パソコン通信のASAHIネットの電子メールサーバーってものは別なものとして動いているみたいだね」

妻「どうして？」

夫「だって、このメール、ASAHIネットのコンピュータが送ってきたものらしいけれど、“POPサーバーを使う登録をしたらASAHIネットのあなたのID宛に来たメールをPOPサーバーを経由してインターネットでお渡しします”って意味みたいだよ」

妻「へええ（全然意味わかんないや）、受け取るのはいいから送ってみようよ」

夫「（げげっ！結局俺の送ったメールは読んでもらえないんだ）送るって、どこへ」

妻「へー。いいところ見つけてあるんだ」（図9）

夫「三島食品？ ふりかけの会社だね（うーむ。たまみちゃん、僕の会社も食品会社だってことわかってるのかなあ）」

妻「ここのね、ほら、これですよ、これ。このあさりごはんがおいしそうなの」

夫「へえ。これ注文しようってわけ？」

妻「注文はもう終わったの。注文画面からあさりごはんを選んで送信するだけだから簡単よ」

夫「そうなの！（たまみちゃん、いつの間に）」

妻「でも発送先を実家に変更したいの」

夫「じゃあ最初の画面のメールをお寄せくださいって書いてあるところ（図10）をクリックすればメールが送れるはずだ、あ、まただめだ」（図11）

妻「あいでんていていーだって」

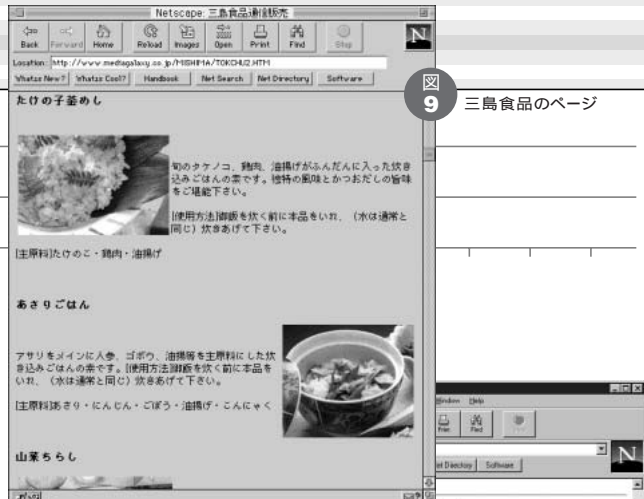
夫「また本名を書くのが、面倒だね」（図12）



Your email address has not been specified. Before sending mail or news messages, you must specify a return address in Mail and News Preferences.

OK

またエラーメッセージ

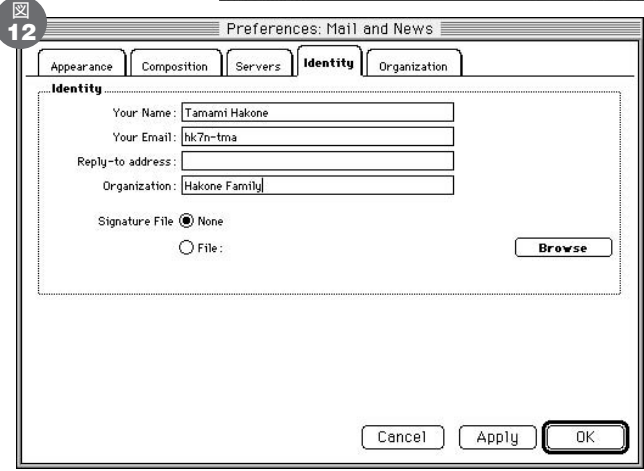


9 三島食品のページ



10

トップ画面の一番下によくあるメールの宛先。クリックするとメール送信画面に



Mail and News Preferencesのidentityを入力

箱根家・今月の教訓

- 一、パソコン通信でももちろん電子メールは使えるが、私書箱を使っているようで不便である。
- 一、専用線を引くと、24時間“郵便局に住んでいる”ように便利になる。
- 一、電子メールのソフトはいろいろある。たとえばコードラというのがあったらいい。
- 一、ネットスケープでも電子メールを送ったり受けたりすることができる。

- 一、ただし、そのためには、自分が使う郵便局（うちの場合はASAHIネット）をネットスケープにわからせておく必要がある。
- 一、その作業はとて面倒なので、電子メールだけならパソコン通信でもいいや、とも思ったが、ホームページを見ている間にも電子メールを送りたくなるので、やっぱり使えるようにしておいたほうがいい。

byたまみ・くに丸



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp